

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	京都大学大学院地球環境学堂
日本側コーディネーター所属・氏名	京都大学大学院地球環境学堂・藤井滋穂
研究交流課題名	インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成
相手国及び拠点機関名	ベトナム：ハノイ理工科大学，フエ大学，ダナン工科大学，ラオス：チャンパサック大学，カンボジア：王立農業大学，タイ：コンケン大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】

急激な変容を遂げるアジア地域の開発途上国では、気候変動に伴い頻発する自然災害、都市域と村落域の不均衡な発展、それに付随する貧困問題、都市居住環境の悪化、自然環境の劣化、地域レジリエンスの低下など、種々の問題が複合的かつ複雑に錯綜し広範囲に深刻化している。この地球レベルと地域レベルの環境問題に対して、アジアの研究者が協働し、学際的・国際的の学問としての先見性と深淵性を持った新しい「地球環境学」を探求するとともに、具体的問題を包括的に理解し、実践的研究から得られた知見を社会に還元・実践することが求められている。

京都大学大学院地球環境学堂・学舎は、従来の学問領域にとどまらず、異分野領域を融合あるいは既存専門分野の枠組みを超えた研究活動をおこない、地球環境問題解決のための学問体系確立を目指している。同時に、アジアにおける国際協働に重点を置き、特にベトナムではハノイ理工科大学、フエ大学(フエ農林大学、フエ科学大学)、ダナン工科大学にて海外教育研究拠点オフィスを設置し、調査研究、人材育成、実践活動の実績を蓄積してきた。現在、その活動はベトナムからチャンパサック大学(ラオス)、王立農業大学(カンボジア)、コンケン大学(タイ)など、インドシナ地域の活力ある大学との協働へと拡大しつつある。しかし、ベトナムをはじめインドシナ地域の大学は社会経済発展に特化した単科大学が多く、異分野融合がとりわけ重要な地球環境課題の解決に向けては、各大学の協働が必要不可欠である。また、インドシナ地域は地勢的、文化社会的に共通する部分も多く、同地域の環境問題解決に資する知識・技術・経験則を共有することは非常に重要である。実践技術やアプローチを探求することが求められる。

本事業では、多くの協働連携を実施してきたベトナムの3大学(ハノイ理工科大学、フエ大学(フエ農林大学、フエ科学大学)、ダナン工科大学)をインドシナ地域のハブと位置付け、当該地域における地球環境学連携拠点を形成し、教育・研究・実践の情報共有化、学際・国際的な人材交流の促進と共同研究の推進に資するインドシナ広域ネットワーク構築を目指す。具体的には、①日本側拠点機関と6海外拠点機関(ベトナム3ハブ拠点、インドシナ3準ハブ拠点)大学の研究者による共同研究チームを形成し、インドシナ地域に共通する環境問題をテーマに実践的研究を展開し、②ベトナムのみならずインドシナ地域への広域連携の拡大を見据え、学問領域、国家領域を超えた地球環境学連携のモデルを構築する。また、③インドシナの地域の「地球環境学」の確立を視野に入れた学際的、実践的研究を蓄積する情報基盤を整備する。

【研究交流計画の概要】

①共同研究

京都大学大学院地球環境学堂・学舎、ベトナムの3海外拠点機関の研究者による学際的・国際的な研究チームを形成し、「暮らしと環境」をテーマに都市と農山漁村に特有の複雑な環境問題の連環に焦点を当て具体的フィールドで実践的研究を展開する。この機会にインドシナ地域3拠点大学の研究者をセミナーやフィールドに随時招聘し、ベトナムをハブとした広域展開の基礎構築を図る。

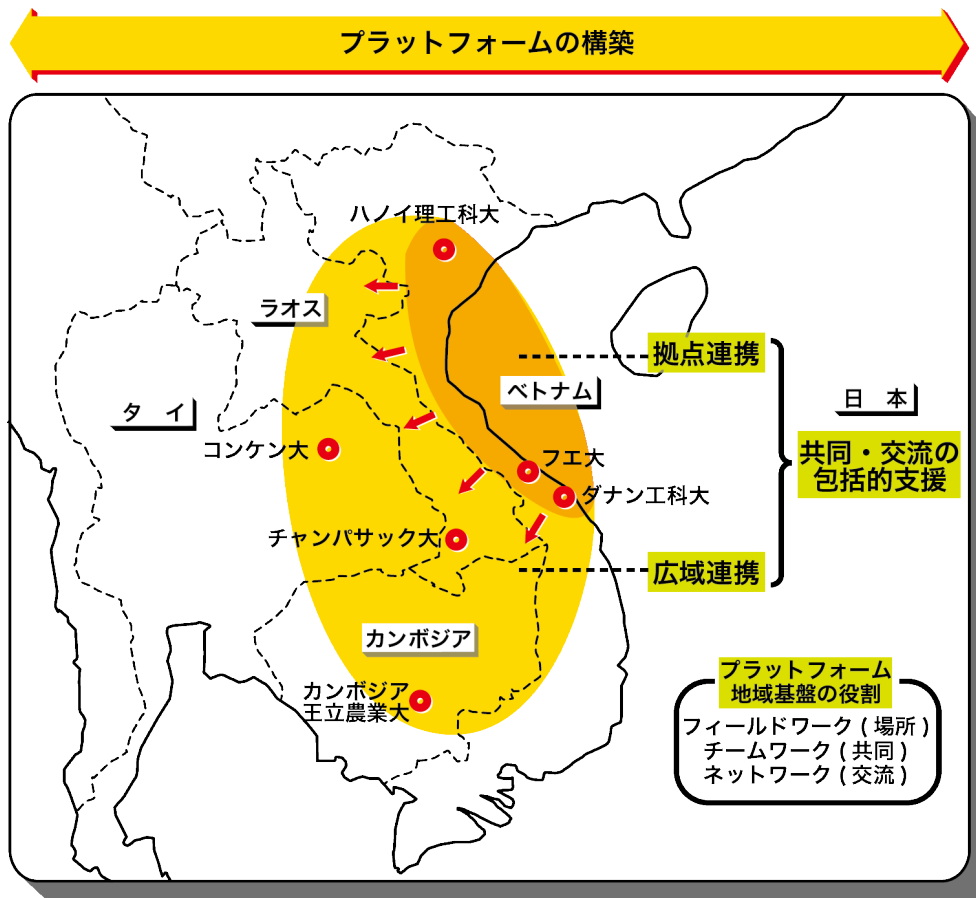
②セミナー

ベトナム3海外拠点機関で利用可能な遠隔会議システムを運用し、共同研究者によるセミナーを月1回程度の頻度で開催する。また、共同研究チームでのフィールド調査・視察を実施し、専門分野・出身地域の異なる研究者間の対話を促進する。研究成果は随時情報発信をするとともに6海外拠点大学とともに毎年シンポジウムを開催し議論の場を設ける(ハノイ、フエ、ダナンで各一回ずつ開催)。

③研究者交流

①共同研究や②セミナーを通じた研究者交流に加え、京都大学大学院地球環境学堂・学舎(GSGES)で刊行しているSansai-An Environmental Journal for the Global Community、及びGSGES Asia Platform Annual Reportの経験を活かして、インドシナ地域で個別に実践されてきた研究成果を包括的にまとめ、相互に参照できる情報発信・蓄積のための基盤を構築する。

[実施体制概念図]



インドシナ地域における地球環境学連携の体制イメージ

インドシナプラットフォームの構築

地球環境学堂・学舎 (GSGES) では、これまでベトナムを中心とした地域での実践活動基盤を「GSGES アジアプラットフォーム」として整備してきた。地球環境学の構築に向けたインドシナ広域連携を可能とするように発展させるために、①フィールド(場所: 研究・教育・実践の活動場)、②人的資源(共同: 国際・学際)の人的体制・活動主体)、③情報資源(交流: 有用な情報・意見の共有化)の3軸についての連携を、ベトナム国内3拠点を中心とした拠点連携ネットワーク、およびベトナム3拠点をハブとして周辺3拠点を組み入れたインドシナ地域広域連携ネットワークの二つのレベルで整備する(上図参照)。

①フィールドの連携

地勢的・社会文化的な多様性と共通性を併せもつインドシナ地域においては、他国のフィールド巡見も参考となる要素が多く、まずベトナム3拠点での研究フィールド(活動場)の共有を図り、将来的には周辺3拠点を含めた共有を目指す。また、研究フィールドを活用して学際的・国際的な若手研究者のミニプロジェクトワーク(小規模実践型共同研究)を実施し相互交流の深淵を図る。このような活動の蓄積は、将来の高度人材共同研究へとつながっていく。

②人的資源の連携

工科大学、農科大学など異なる分野の研究者や、インドシナ地域の異なる大学の研究者が相互連携を深めるため、セミナー、ワークショップ等の人的交流を進め、人的資源の基盤を築く。小分科会セミナーは適宜開催、年一回開催予定の全体ワークショップはベトナム3拠点を開催地とし、将来的にはインドシナ地域への拡大を検討する。また、前述の若手研究者によるミニプロジェクトワークを通じて、人的資源の連携を一層深めるしくみをつくる。

③情報資源の連携

インドシナ地域では、その類似性から共有すべき情報資源は多い。相互連携により得られる新たな知見を効果的に共有・活用するため、セミナー、ワークショップによる情報共有とともに、刊行物あるいはWebデータベース等を集積することで、インドシナ地域の地球環境学連携の情報基盤を整備する。